

研究課題名 頭蓋内巨大脳動脈瘤形成に関わる因子の解明に関する情報公開

1. 研究の対象

当院で頭蓋内動脈瘤の脳血管内治療（カテーテル治療）を過去に（2019年頃～現在）受けた又はこれから受けていただく方や、現在外来で経過観察を受けられている方

2. 研究目的・方法・研究期間

脳動脈瘤の有病率は2-5%とされています。脳動脈瘤を有する患者の大多数は、生涯にわたり臨床的な異常をもたらすことはありませんが、動脈瘤の破裂をひき起こすと、くも膜下出血となり、致死率は50%に及び30から50%の生存患者に何らかの後遺症を残すと報告されています。過去数十年の間に脳動脈瘤の形成、成長、破裂に関わる因子に関して多数の研究が行われているが、疫学的研究が多く、未だ定かではありません。

本研究の目的は、頭蓋内動脈瘤患者の末梢血、瘤内血など多部位の血液を用いて、プロテオミクス解析で網羅的にタンパクの発現を解析し、比較することで動脈瘤形成、増大、破裂に関わる因子を解明することです。同様にRNAの発現も網羅的に解析します。特に頭蓋内巨大動脈瘤形成に関わる因子を特定することを目的としています。また下垂体ホルモンや性ホルモン、また周辺因子(CYP19A1、HSD 遺伝子多型など)と動脈瘤の形成、増大、破裂との関連を解明することです。

さらに、頭蓋内動脈瘤患者の末梢血、瘤内血など多部位の血液を検体として保存することで動脈瘤患者のデータベースを構築し、今後さまざまな比較に応用していくことです。

この研究は、外来採血、または血管内治療中にカテーテルから採取した少量の血液を用いて、血液に含まれるタンパク、RNAを網羅的に発現を網羅的に解析します。また、ホルモン濃度並びにCYP19A1とHSD17B2遺伝子を調べ、生活習慣や背景を統計学的に解析します。

検体から特殊な機械を用いて微量なホルモン濃度を測定し、DNAを抽出して遺伝子解析によって遺伝子多型の判定を行います。個人情報^{こじんじょうほう}が特定できない状態で、外部委託での解析を行うこと（マクロジェン社、フィルジェン社 他）があります。

研究期間としては2025年3月31日を目標としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報及びアンケートから取得する情報: カルテ番号、生年月日、イニシャル、発症年齢、服薬歴、家族歴、既往歴、飲酒歴、喫煙歴、体重、妊娠分娩歴等

試料：血液

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学

准教授 泉 孝嗣

住所 名古屋市昭和区鶴舞町65

直通電話番号 052-744-2353

FAX 番号 052-744-2360

e-mail: my-yuzu@med.nagoya-u.ac.jp